

To Forward

～前に向かって～

加中人権スローガン
「気づき・考え・行動する」
めざす学校像
「希望と笑顔あふれる楽しい学校」

2023年6月2日

今年は例年より早く梅雨入りの模様で、時折太陽が顔を出すこともありますが、ここ数日は重い雨雲が空を覆っています。このような天気が続くと、少し心が憂鬱になるかもしれませんね。

さて、「6月 国際デー」と検索すると6月は多くの国際デーが設定されており、全てをみなさんにお伝えすることができません。その中から一つ、私が気になった「国際アルビニズム（白皮症）啓発デー」を取り上げようと思います。

アルビニズム（白皮症）とは、メラニン色素合成の減少や欠損が原因で、民族や人種、性別にかかわらず、世界的に見られる遺伝性疾患です。彼らの多くは、視力障害で白い肌と白い髪をもち、直射日光に弱く、日焼け止め対策を怠ると皮膚がんを発症する確率がとても高くなります。アフリカ大陸での発症率が高くなっています。

彼らは、世界各地で誤解や偏見の対象となっている場合がありますが、特に事態が深刻なのはアフリカ大陸の国です。迷信により「幽霊」だと信じられていたり、白い身体が「幸運」を呼ぶとして呪術に使用する目的で切断されたり、殺害されたりする事例が数多く報告されているそうです。

日本でも私もアルビニズムの方を見かけたことがあります。アフリカで起きているようなことは人権侵害の何物でもありませんが、私もこのような事実を全く知りませんでした。日本ではあまり知られていないこの差別に関して、2018年には東京で会議が開かれ議論されたそうです。

私たちが気付いていない差別も多く存在している一つの事例です。私たちがあらゆる人権問題に対して、アンテナを高くして問題に気づき、よりよい社会をめざして考えたり議論したりできるようになりたいですね。



全国人権擁護委員連合会会長賞 「『ふつう』の多数決」

福岡県立嘉穂高等学校附属中学校1年 児島 杏奈

「ふつう」って何だろうと、小さいときから思うことが多かった。誰かにとっての「ふつう」は他の人から見れば「異常」で、「ふつう」かどうかなんて、「ふつう」だと思う人の数と「異常」だと思う人の数を比べて、どちらが多いかで決まっているようなものだ。一般的な意見なんてのは、所詮は多数決で、だから、物事の本質ではないはずなのに。

女子は女子らしく、男子は男子らしく。これが「ふつう」なら、「私が私らしく」あることがなぜ「ふつう」ではなくなるのだろう。

スカートをはいて、「私」という一人称を使うのが「女子らしい」のなら、普段はズボンをはいて、日常的な会話で「僕」という一人称を使う私は、一般的な意見 —— あくまで多数決だが ——

では、「ふつう」ではないのだろう。そんな私が、今日は「表現の自由」と「ふつう」について考える。

学校の制服は、女子用で、もちろんスカートだ。あまり嬉しいことではない、できれば男子の着ている制服が着たいが、私の戸籍の性別は女で、仕方のないことだと思う。でも、私が「僕」とつかうと、たいていの場合、疑問に思われる。

「え、何で」

仲の良い人はそのことを認めてくれている。でも、あまり関わりのないクラスメイトの躊躇のない質問は、些細なことかもしれないが、何度も続くと、だんだんきつくなっていく。

「ボクっ娘なんだね」

中途半端な知識から、無理矢理カテゴライズする人もいた。だんだん、自分が分離していくような気がした。そんなとき、作文を書くときに「私」と書くことにも違和感を覚えるようになった。本当に、これは自分の考えていることなのだろうか。悩みに悩んだ末、私が最も信頼する方に相談することにした。

私の相談をその方は真面目に聞いてくれて、「作文や、先生に対するときの『私』は敬語だと考えれば良い」「最終的には社会人になったら性別に関係なく『私』と使うから」「変だという人とはあまり関わらなければいい」という風に、アドバイスしてくれた。「私」が敬語だという考え方は、今までの私にはないもので、言葉の一つ一つが、励ましとなった。

私は、できることなら男子になりたいけれど、それを学校で言うのは、あまりにリスクが大きい。イジメられるかもしれないし、不必要に優しくされるかもしれない。実際は、この作文を書いていることすらも、かなり危険なことだと思う。けれど、人間は一人一人同じようにはできていないのだから、言葉にしないと、私の「ふつう」とあなたの「ふつう」が違っているということすらも分からない。だから、私は今、この作文を書いている。

LGBTQの方々にとっての「ふつう」は他の人から見れば「異常」なのかもしれない。でも、それはLGBTQだからという訳ではなくて、人間の一人一人の思考回路が違うから起こることなのだと思う。だから、同じ家族でも、同じ学校の人でも、いくら気が合う人でも、一から十まで全部、まるっきり同じということはない。みんな違ってみんな良いかは別として、みんな違うのである。

もし、あなたがみんなと違うからという理由で、「ふつう」ではないからという理由で、イジメられているとすれば、それはイジメている人の「ふつう」があなたの「ふつう」と違っただけである。だから、自分はおかしいのだと悩まなくていい。他のところへ行けば、あなたが「ふつう」で彼らが「ふつう」ではないかもしれない。「ふつう」はただの多数決である。

自分を表現することは自由で、それは基本的人権の一つだ。表現の自由は権利なのだから、それでもイジメられるのなら、確実にイジメた方が悪いのである。自分達が「ふつう」だと思っている人は用心した方が良くもしいない。せつかく表現の自由があるのだから、自分の「ふつう」と誰かの「ふつう」の違うところを見つけるために、自分の「ふつう」を表現してみたら良いと思う。

私も公の場ながら、最後に一つ言わせてもらいたい。

僕はそのまま僕でありたい。